

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200135	事業の開始年月日	2012年5月19日		
		指 定 年 月 日	2024年5月17日		
法人名	テクノケアサービス株式会社				
事業所名	グループホームきずな				
所在地	(〒 987-0365) 宮城県登米市豊里町新町10-4				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	9 名	
			ユニット数	1	
自己評価作成日	2025年2月2日	評 価 結 果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が余暇を楽しんでいただけるように、線つなぎや塗り絵、漢字書き取り、読書、新聞読みやTV視聴など個別にレクリエーションを提供したり、室内での体操や軽い運動を毎日しています。

また、リビングではチューブでの歌番組や体操、BS放送の時代劇などを皆で観ながら利用者様に楽しい日常生活を過ごせるように努めております。

職員同士、丁寧な声掛けに努めており、「ありがとうございます」の言葉をお互いに掛け合いながら仕事をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

○基本理念:

- ・安心と一人ひとりが尊厳のある生活を送ります
- ・笑いと楽しみのある施設を目指します
- ・地域の皆様との交流や自然とのふれあいを大切にします

○介護理念:

- ・利用者様とスタッフが心から信頼し心から笑えるように

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

元々の母体法人は「株式会社只野組」という地元登米市の建設業者である。社訓の中に「『地域社会』に貢献する」があり、その一環として、東日本大震災翌年からグループ企業の「テクノケアサービス株式会社」（旧只野製作所）に福祉事業所を立ち上げ、福祉用品貸与・特定福祉用具販売・2つのグループホームの運営を順次開始した。「グループホームきずな」は、2012年に利用者と職員が家庭的な環境の中で、家族のような『きずな』のもとで生活できるようにと、設立した。ホームは、三陸縦貫自動車道桃生豊里ICより5分のところに位置し、周りには住宅や旧北上川があり、自然豊かな地域にある。ホームは1ユニットの平屋建てで、天井が高く天窓があり明るく開放的である。広いリビングではレクリエーションが活発に行われている。

【事業所の優れている点・工夫点】

①理念の実現に努めている点

介護理念を実現すべく、職員が一丸となり真心で利用者本位のケアに尽力している。笑顔になれるレクリエーション（川柳・トランプ・積み上げゲーム）などを企画し、手先を使いながら活発に行われている。利用者と一緒に作った季節の飾り付け（1月は「絵馬」、「紙玉で作った蛇」や、利用者の作品の「塗り絵」「川柳」などを展示し明るく楽しめるリビング作りに努めている。職員同士、利用者への「ありがとう」の言葉を大切にしている。

②地域との交流に力を入れている点

地域との交流にも力をいれ、町内会活動や地域ネットワーク会議に積極的に参加している。管理者が長年町内会の執行役員を担い町内会との関わりも深く、地域住民の信頼を得ている。

③運営推進会議での話し合いが活発に行われている点

コロナ禍が5類になり、対面式での運営推進会議が毎回活発に開催されている。市職員や地域包括職員・町内会長・民生委員・家族・利用者など毎回10名以上が参加して情報交換が行われ、意見や要望を聞き運営に活かしている。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームきずな
------	------------

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名:グループホームきずな）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践し、共有するように努めている。	「基本理念」と「介護理念」を常に確認できるように掲示している。年度末にケアを振り返り、見直している。法人代表の「四つの問い」（・真心で尽くしているか・思いやりの気持ちはあるか・楽しく仕事をしているか・みんなの為にになっているか）も常に意識できるよう掲示し、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃や、花植えには職員1名が参加している、管理者が町内会執行部役員も行っており上手く 付き合えている。。	町内会に加入している。管理者は町内会役員を長年担い地域住民と交流が深い。利用者は町内会が開催する秋祭りや敬老会に参加し、地域清掃や花植え等には管理者が参加している。秋に開催する「よさこい祭り」では踊りの慰問があった。ボランティアはコロナ禍以降受け入れていないが、町内会から「また声をかけて」と言われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、理解を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方々、ご家族様に来訪頂き、意見交流を行い、出来る限り希望に添えるように努めている。	メンバーは利用者、家族、町内会長、班長、民生委員、市長寿介護課職員、津山・豊里地域包括職員、ケアマネ、職員、管理者など毎回10人以上が参加し2ヶ月ごとに開催している。ホームからは運営状況・研修・行事・事故・ヒヤリハット等を報告し、参加者から意見・要望を聞いている。参加者に分かりやすいよう、今年度から利用者の日常の生活を写真にし、プロジェクターで投影し説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	登米市 長寿介護課の職員、地域包括支援センター等との電話連絡は行っている。	市長寿介護課職員、津山・豊里地域包括職員が運営推進会議に参加しており、ホームの状況を共有している。市とは行政手続き、事故報告、生活保護受給者の報告相談等を都度行なっている。地域包括支援センターには入居状況について相談している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束廃止委員を設置し三ヶ月に一回身体拘束について研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重要事項説明書に「身体拘束の禁止」を明記している。身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催し、研修は年2回計画し実施している。玄関の施錠は19時～翌朝7時までである。入居間もない利用者で離設傾向がある人には、後方から見守る形で同行している。日常的に散歩や買い物など外出する機会を増やし気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画による、当該研修の実施、また本年より、年2回の虐待防止委員会を開催を行って虐待の防止の徹底を行っている。	虐待防止委員会を年2回開催し、研修を計画している。日常のケアで気になった点は職員間で声がけをし、防止に繋げている。毎月の会議「スタッフ会議」「ケア会議」で情報共有している。職員がいつでも相談できるよう、法人の相談窓口が設置されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修し理解を深めているが、関係者と話し合う機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様より要望あれば、反映できる案件は反映している。ご家族様面会時や行事参加時、要望や意見を伺い反映できる案件は反映させている。玄関に意見箱を設置し、直接話しにくい案件は登米市へ連絡して頂くように説明している。	家族会はない。家族の来訪時や、運営推進会議に家族や利用者が出席しており、意見や要望を聞いている。家族から「外出、外泊をさせたい」との要望が出され、状態を確認し応えた。意見箱を設置しており、ホームに言いにくい事は直接市に連絡してもらうよう説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて要望あれば出来る限り対応している。	職員の意見や要望は都度聞く機会を設けている。主に備品などの買い替えの提案があり反映している。また社長が時折来所し、気さくに職員と談話をし、話の中で要望等を聞いてくれ叶えてくれることもある。管理者は働きやすい職場環境作りに努め、職員が有休を取りやすいよう声がけしたり、資格取得の際は勤務扱いで費用面も支援するよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思うが、職員として不満が無いわけではない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はかなり少ないが、内部研修は行っており職員を育てる取り組みは行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	包括支援センター主催の地域ネットワーク会議に裁可して交流に努めている。	地域包括支援センター主催の「地域ネットワーク会議」（3～6ヶ月毎開催）に参加している。地域の介護施設職員・町内会長・民生委員等が参加し、地域資源の活用についてや相談、様々な事を話し合い交流を深めている。また管理者は以前同法人の福祉用具の貸出・販売会社に勤務していた経験から、仕事を通して知り合った他の介護施設職員との繋がりが有り、情報交流している。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	想いを共有した声掛け等を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙で近況報告し現状を報告している。また、家族には医療機関受診時に立ち合いいただくなど協力を得て支えてもらっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2名の利用者の友達は時々電話で会話をされている。 自宅のハウスを心配されていた利用者様はドライブがてら、現地に行って芋ほりされたことを確認してもらったこともある。	家族の面会が多く、正月を自宅で過ごす人もいる。知人からの電話を取り次いだり、手紙のやり取りが継続できるよう支援している。利用者に手紙を書いてもらい、家族に毎月郵送する報告と一緒に同封することもある。行きつけの美容院に家族が同行したり、自宅の畑の様子を確認するために車で一緒に出かける等、これまで大切にできたことが継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題・行事等で係るように支援しているが、各々個性があり合う合わないの関係が観られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴う退去された利用者様の家族様とは、退院後の特養入所申請にてフォローさせて頂いた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位、または心身状態把握に努めている。	日頃から利用者本位のケアについて検討し、気づいたことは毎月の会議で情報共有している。「衣服がきつくなってきた」「軽い茶碗の方が持ちやすい」など、利用者との日常の会話で把握したことを家族に伝え、対応を依頼している。利用者が楽しく和やかに過ごせるよう、手先を使ったり頭脳や心理戦など様々なレクリエーション（川柳、トランプ、積み上げゲームなど）を職員が交替で企画し行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	配慮し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人本位、または心身状態把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方向性についてケア会議内で話し合っている。家族様にも相談し意見を伺っている。	毎月の会議でモニタリングを行ない、3ヶ月ごとに評価し、6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。計画作成時には、本人・家族・医師、看護師に確認している。日々の介護記録の最初にケアプランを添付し、日々のケアが計画に沿って行えているかを常に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が出来るように図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活扶助の利用者様の、ほしいもの（洋服や化粧品、毛染め等）について、生活福祉課へ相談した。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を行っている。協力医療機関以外の受診時は同行し症状・身体状況の把握に努めている。	希望するかかりつけ医を受診できるが、入居後に協力医療機関へ変更する人も多い。協力医の受診には職員が同行し、状態に変化がなくても半年～1年に1度は家族に同行してもらい情報共有をしている。その他の病院の受診は基本家族が付き添っている。家族の事情により職員が同行する場合もある。受診結果は都度家族に報告している。訪問看護師が週1回健康管理を行い、急変時も連携し対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日訪看訪問されるので、気づいたことは日誌に記載し、訪看に伝える。内容は支援記録に記載し情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は症状の確認に伺い、情報を得るようにしている。入退院時には主治医との面談実施している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期・重度化の際、方向性や希望を入居時に確認している。訪看との連携に努めている。	入居時に「終末期における確認事項」で意思確認している。看取りは訪問医の体制が確保できないため、ホームでできること、できないことを説明し、家族から同意を得ている。浴槽が一般個浴のみのため、支援が難しくなった段階で医師と相談し、特別養護老人ホーム等への移動を相談している。急変時は訪問看護師が24時間対応で連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修での救急救命研修を行っている。また、防災研修も実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	豊里公民館への防災避難訓練を実施している。	火災・洪水・地震・原子力災害のマニュアルを整備している。年2回、夜間想定を含めた火災訓練と、避難場所である豊里公民館への避難訓練を実施している。備蓄は食品や生活雑貨品等を3日分用意している。設備点検は業者が年2回実施している。感染症対策として、毎食後には窓を開け、換気を徹底している。2023年1月のクラスター発生以降での利用者のコロナ感染者は出ていない。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限りプライバシーの尊重に努めているも、耳の遠い方も居るので、配慮に欠けることもある。	基本は下の名前に「さん」づけで呼び、職員同士も同様にしている。接遇とプライバシー保護の研修を行い、入室時はノックで確認したり、利用者が居室に居ない場合は事前に本人から許可を得ている。排泄時の羞恥心への配慮を徹底し、今は多くの利用者が自立しているが、離席したらそっと見守り必要時に支援をしている。トイレにはドアの内側にカーテンを設け、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状の重い方も居るので、相手の思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めているも、時には職員優先になることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	眉毛を整えたり、身だしなみに気を使っている方も居る。また、職員が髪を結ったりしてあげることがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルで食事している。準備は難しいが、片付けは利用者に手伝っていただくこともある。	食事は、ご飯と汁物はホームで作り、宅配サービスを利用し副菜の材料が届き、調理して提供している。メニューを見て週3～4回注文し、他の日は利用者のリクエストに応えたり、自由に職員が献立を考え提供している。利用者の誕生会や行事食もホームで調理している。利用者の残存能力に合わせ、可能な人は野菜を切るなど下ごしらえをしたり、配膳・下膳、食器洗い・拭き、テーブル拭きを行っている。その日のメニューをリビングに掲示し、職員も一緒に食事をしている。栄養管理は利用者の受診結果（体重の増減、血液検査）を受け、医師や訪問看護師と相談し、適宜食事量を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼に応じて食事形態を変え、主食量も各個人によって調整している。主治医に主食量の相談をすることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後、就寝前に口腔ケア実施している。義歯は入歯洗浄剤で消毒し、口腔状態に応じ口腔スポンジまたは口腔ケアシートを使用している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ほとんど利用者様は、トイレ排泄しているが、1名の利用者様は夜間のみおむつ対応している。	排泄パターンを把握している。利用者の多くが自立しているため見守りで支援し、車いすの人のみ、声がけし支援している。便秘対策として、午前のおやつに牛乳、お昼にヨーグルト等の乳製品を摂るなど、食事対策できるよう努めている。状態により必要時には医師の処方により服薬する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操で体を動かしたり、おやつに乳製品提供など便秘予防に努めている。場合によっては主治医より処方された服薬により便秘解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めているが、声掛けし気が乗らない時は変更している。入浴したいと希望あれば行っている。	入浴は週2回、午前中を基本に、足浴を週2回午後に行っている。他に受診前日や、本人が希望する場合に入浴支援をしている。湯はかけ流しで、設備の関係で入浴剤は足浴の際に使用し楽しんでいる。入浴が気乗りしない人には、“あったかくしてあるから、億劫だけど手伝うから”等、入りやすくなるような声掛けをして取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢の浮腫み、心臓疾患等の現病に応じ声掛け行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧ファイルにて服用している処方箋がいつでも見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むきや、食維持の盛り付け。お茶くみもして頂いている。 自室やリビングの掃除、食器拭き、洗濯物畳みやり初交換時手伝って頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩、ドライブなどお誘いして 行きたい利用者様をお連れしている。 また、家族様との外出もされている。	年間の外出計画を立て、花見・紅葉狩り・秋祭り・初詣に出かけている。外出がなるべくできるよう、散歩に誘ったり、用事で車で出かける時に「一緒に行きませんか」と声掛けしたり、歯磨き粉等を一緒に買いに行ったり等、日常的に外出できるよう支援している。家族と外出や外泊する人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者も居る。所持しなくても、必要なものを即時購入できる状況にある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの利用者様は、時々電話をされている。 手紙を書く方は、今は居ません。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙、花など飾り季節を感じて頂いている。	リビングは、天井が高く天窓があり明るく、太い梁が掛けられ開放的な空間である。壁には利用者が作った作品や職員と一緒に手作りした季節の飾り物を展示し、楽しい雰囲気作りに努めている。その日のメニューをホワイトボードに掲示し、食事を楽しみにしてもらえよう工夫している。カレンダー、時計は文字が大きく見やすい。温・湿度は3時間ごとに職員がチェックし、毎食後には窓を開け、換気を徹底して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えで気の合う方同士を近くにするなど行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真など飾って頂いている。壁飾り等で本人の好みになるように配慮している。	居室には電動ベッド・ロッカー・チェスト・温度計が備え付けられている。利用者は馴染みのテレビ・タンス・椅子等を持参している。職員は利用者の動線を確認し配置を整え、安全に配慮している。温・湿度管理は職員が行っている。掃除は、可能な利用者は職員と一緒に毎朝モップがけをし、棚拭きや整理整頓は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の確保、段差の解消、各部屋、トイレ等分かり易いように行っている。		